

言葉合わせ

山桜桃 佳正

「やつほー、めっちゃ眠い、この授業何かやることあったけ？」

大学に行くまでには少し力があるけど、教室に入ってしまったえばこっちのもんだ。

今日は、とかいいつも友達に話しながら席に座る。ざわざわと一つ一つは聞き取れないが、他の人たちも話していてなんか安心する。全員の言っていることは聞き取れないけど、疲れている人や楽しそうな人、切羽詰まっている人。何かしら違う感情を持っているのに私の耳には、全部まとめて面白い音として入ってくる。ほら、あの海岸の波打ち際みたい。貝殻もサンゴの骨も砂粒も全部違うのに、パツとみると白くて、きれいで美しい。波の音と貝殻がすれる音が混ざってキラキラしている。よく見ると全部しつかりとした形を持って一つ一つが完成されているのに、あんまりじっくりとは見ない。でも、少しでも気にかければそれは私を楽しませる。そう、楽しい、楽しい。ふわふわと耳に流れ込んでいる声、このままうつらうつらと眠っていけば幸せなのに。

キンコーン、カンコーン。ああ、チャイムが鳴っちゃった。授業が始まる。さっきまでの空気

感は消え去っちゃった。

先生の声が響く、いまはスペイン語の授業だ。先生ははっきりと聞きやすい声でしゃべる。外国の先生だから、少し違和感があるけど、それも先生の味だ。ときどき混ざる沖繩訛りは、先生が沖繩で日本語を学んだ証拠で面白い。スペイン語の授業は始めてから、五か月がたった。日本語より英語の方が似ているそうだから、時々英語の文法を使いながら説明される。私は英語の文法を覚えてないからチンプンカンプンだけど、友達は納得している。友達がちよつとうらやましい。なんか言葉がつながっているのは謎解きみたいな楽しさがある。先生が迷ったら英語の単語を思い出せばいいって。大体当たっているそうだから。私の頭の中にある単語がほかの言語でも同じ意味なんて素敵だ。

まあそんなこといっても、私は自分の頭の中に入っている情報を全部出すこと出来ない。だつて頭の中はぐちゃぐちゃでまるで積み重なった服の山。外側は、ぱつと見て色とか触り心地はわかるけど、下に行ったり、真ん中に行ったら何も分からない。そこから取り出すなんてもつと大変。整理整頓できればいいんだけど筆筒がないからできないよ。

そういえば、前に先生がスペインの人を連れてきたことがあった。彼らの自己紹介は私たちが習った文法を使ってやってくれたけど、全然聞き取れなかった。名前さえも。これも自分の頭が整理できてないせいね。言葉ってそういうことがある。日本語でも。私は本が好きなんだ。自

分でも難しい言葉知ってるって誇らしげになることがある。でもそれは紙の上だけ。それを友達
の口から出ていても私はとっさに反応ができない。前「潤沢」という言葉を聞いて、意味が全然
分からなかった。その言葉を読んだことも、意味も調べていたことも思い出せなかった。いまな
ら「物が豊富にあること」とわかってそのまま会話が続いたのに。本当に嫌になっちゃう。自分
の頭の中にはどのくらいの単語が入っているのかしら。

先生の声がある。授業を真剣に聞かなくちゃ。